

【R7年度】重点目標の取組・概要（春木駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（3124）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

現状と課題
<p>南海本線春木駅周辺の地域拠点にふさわしい安全で利便性の高いまちづくりの実現のため、春木1号踏切付近の交通渋滞の解消を図る必要があり、さらに、春木1号踏切から春木西之内線までの区間が、近隣に位置する城北小学校の通学路に指定されことにより、喫緊の課題として、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する必要がある。</p>

R7年度の事業費（内訳）
<p>R7年度 45,114千円 （内訳）用地買収、物件補償、工事</p>

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
<p>【中期的(4～5年後)にめざす成果】 喫緊の課題に対応するため春木駅大宮駅線を道路拡幅し、交通渋滞の緩和、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する。 （延長L=136m、幅員B=16m）</p> <p>【成果に向けての各年度の進め方】 R7年度 用地買収、物件補償、工事 R8年度 工事</p> <p>【R7年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 （期間） R7年4月～R8年3月 （対象者） 事業区域内権利者 （内容） 用地買収、物件補償、工事</p>

R8年度以降の事業費（ランニング経費）
<p>R8年度 30,000千円</p>

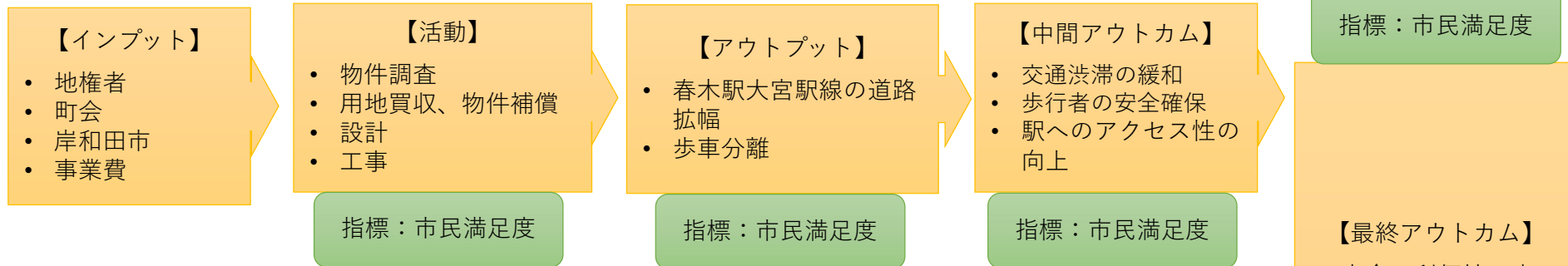
取組の進捗・成果を測る指標
<p>鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（岸和田北部地域） 16.7%（2022）➡増加（2025）</p>

成果・指標が未達成の場合の取扱い
<p>※必ず縮小・廃止時期を記載すること 未定</p>

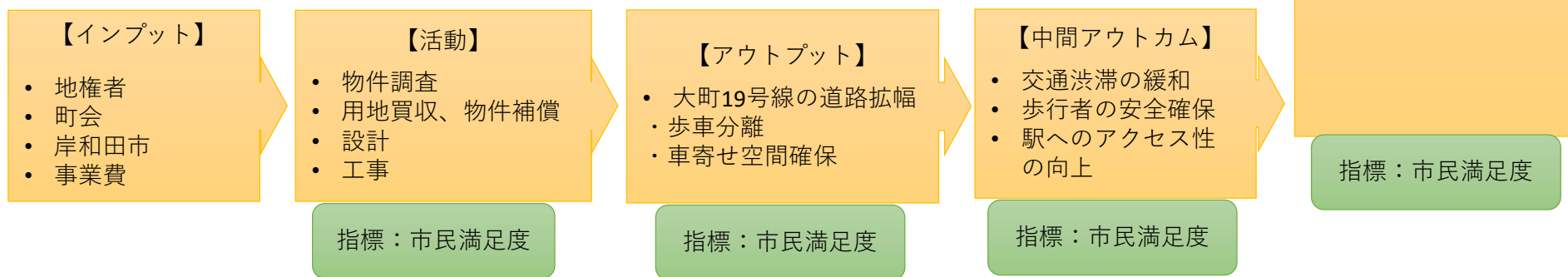
【R7年度】重点目標の取組・ロジックモデル（春木駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】

市街地形成事業（春木駅周辺まちづくり事業）



市街地形成事業（久米田駅周辺まちづくり事業）



財源	他団体の状況	その他（行政サービスとしての適正性について など）

【R7年度】重点目標の取組・評価シート①（春木駅周辺整備の推進[市街地形成事業]）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 喫緊の課題に対応するため春木駅大宮駅線を道路拡幅し、交通渋滞の緩和、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する。

■ R7年度において実施・実現できたこと

- ・ 全ての用地買収、物件補償が完了した。
- ・ 今年度予定工事が完了した。

■ R7年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 用地買収、物件補償、工事

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R7年度実績値
○	鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（岸和田北部地域）	%	16.7（2022）	増加（2025）	17.3

■ R7年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 特になし

■ 課題分析

- ・ 特になし

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ ロジックモデルで設定したとおりの活動（用地買収、物件補償、工事）が実施できた。
- ・ 令和7年4月に新設歩道を部分供用したこともあり、成果指標について令和7年度実績値で目標値を達成した。
- ・ アウトプットを推進し、成果指標のさらなる増加を目指して活動を継続していく。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 引き続き、活動（工事）を実施していく。